



Yonago East Weekly

●創立/1968年4月24日 ●事務所/米子市西福原1-1-55 ホテルサンルート米子 Tel (0859) 32 - 5531
 ●例会日/水曜日12:30~13:30 ●例会場/ホテルサンルート米子市西福原1-1-55 Tel (0859) 33-0911
 ●会長/尾沢三夫 ●幹事/永見吉平 ●会報/伊藤慎哉

出席報告

会員数78名

今週のお祝い

出席100%祝: 16年 木下博夫君、永島清孝君

会長挨拶

先週、米子がいな祭りが晴天に恵まれて二日間催されました。花火大会を納涼例会で求めさせて頂いた栈敷席にて見て参りました。最後の大きな花火の連発を目の前で見る事が出来、記憶に残る花火大会でした。関係者の皆様ご苦労様でした。

松江市が東出雲町との合併で、出雲市が合併して肩を並べられ追い越され、今松江、鳥取、出雲の後に米子市が後塵を配する形で存在しています。人口だけが比較対象では有りませんが、都市の活力にはそれなりの物が必要かと思えます。米子市の地域活性化に知恵を出しながら頑張る所存でございます。

目を海外に向けると米国が破たん懸念国家になりそうであります。オバマ大統領が苦慮をなさっています。議会のねじれに似ており、その影響で円高が進んでおり目が離せない状況です。

来週の例会後、友好クラブの阿南南RCとの交流に出発し阿波踊りを見学する予定で、沢山のご参加を頂いております。

幹事報告

1. 本日例会後、臨時総会
 2. 8/17(水)休会
 3. 10/23(日)地区大会の案内 (倉吉未来中心)
10/21(金) // 記念チャリティゴルフ大会 (三朝カントリー倶楽部)
 4. 9/23(祝)第2グループ親睦ゴルフ大会の案内 (大山平原ゴルフ ホスト:米子中央RC)
 5. 8/12.13阿南南RC例会参加&交流会 (会員10名、ご家族7名参加予定)
 6. 例会変更のお知らせ
米子中央RC 8/11(木)夜間例会
ビジター受付あり
- * 他のクラブ変更分はFAXします

今後の行事予定

- 8/12.13 阿南南RC例会参加&交流
- 8/17 休会(定款第6条)
- 8/31 ガバナー補佐訪問クラブ協議会
- 9/14 伊藤ガバナー公式訪問例会
- 9/28 観月夜間例会
- 10/16 中学生作文コンテスト表彰式

《 プログラム 》

「ロータリーの友」雑誌紹介

小田浩一雑誌リーダーによるユニークな紹介

- ・ロータリーのメッセージを広める
- ・数字で見る日本のロータリー
- ・会員増強のためのネットワークで、めざそう純増
- ・日本の心を持つ国際人
- ・アマゾンの森は今!
- ・霧が育むブランド豆「丹波黒」の申し子(黒大豆のブランド豆知識)



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

Reach within to embrace humanity

こころの中を見つめよう 博愛をひろめるために

「国際交流エピソード」

川端恵美子会員

野坂プログラムリーダーには恩がありまして、昨年私どもの会が年に一度のバーベキュー会に駆けつけて頂き、金一封を頂きました。今日は、23年の国際交流協会のエピソードを二・三拾って逸話を元に話したいと思います。

ポイントは3つ有ります。一番目は、広報米子平成元年7月1日、今から23年前に私どもの会が設立しました。23年前のこの写真は、前々松本市長の横に立っているのは私の姿で有ります。

この二番目のポイントは23年前から私が全く変わっていない事です。

三番目のポイントは、国際交流協会の設立された目的は外国人の受け皿になろうと云う事です。

国際交流協会のエピソードを紹介していきます。私どもの会は、日中、日露、日韓交流協会と違って国を特定していません。世界中の国が相手です。日本人は、国によって態度が微妙に違います。例えば白人で金髪で目が青い英語ペラペラの西洋人に対してはオドオドと引いてしまいましたが、タイやフィリピン人に対しては、自ら進んで通じるのか通じていないのか分かりませんが、ジョークまで交えて積極的に接して頂けます。朝日町で積極的に国際交流をなさっているのかも知れませんね。国際交流協会はホームステイも引き受けています。

私は、アルバイトで50万円と貯め米国に行きました。私がホームステイをした時、有るメキシコ系の家庭では、居間に寝袋で寝ろと云われました。日本では、家が汚いとか家の広さの問題ではなく、ホームステイを引き受け様とする心の広さなのです。色々な問題が有りましたが最も大きいのは言葉の壁です。

お土産のグリコのキャラメルを持って行きました。3歳の子供がキャラメルを開けようとしていました。今なら云えますが、その当時Shall I...?だったかな?と考えていた所、私の考えを読めたのか、その3歳児が『I can open it. thank you!』と言いました。言葉の壁って云うのは心の壁だったのです。言葉を交わしていなくても心を感じて、私が助けたいという心を読んでくれたのです。

私の23年間で実感した事は、ある先生が米国に留学されていてですが、存在感が無く疎外感を感じづらい日々を送っていた所、ある日柔道の試合で自分の倍近い大男を巴投げで投げ飛ばした後、周りの自分を見る目が変わり、日本人としての大和魂、アイデンティティーがあつて、本当の日本人としての自覚が目覚めてやっと国際人になったと云われました。私も同じような事を沢山経験しました。結論として、本当に相手の言葉を聞きたい、自分が伝えたい、通じ合いたいと思えば通じるのです。



<写真 :国際化への“受け皿づくり”を
めざして開かれた懇談会>
広報よなご元.7.1 掲載